

2006年12月22日

人間科学研究科長 殿

## 山蔦 圭輔氏 博士学位申請論文審査報告書

山蔦 圭輔氏の学位申請論文を下記の審査委員会は、人間科学研究科の委嘱をうけ審査をしてきましたが、2006年12月22日に審査を終了しましたので、ここにその結果をご報告します。

### 記

1. 申請者氏名 山蔦 圭輔

2. 論文題名 摂食障害予防のための尺度および心理教育プログラムの開発

3. 本文

本研究は、摂食障害予防のための尺度および心理教育プログラムの開発とその効果を検討したものである。まず、本論文の概要を紹介し、次にその評価について審査結果を報告する。

近年、女子大学生や女子専門学校生を対象とした調査では、摂食障害(Eating Disorder:以下 ED)罹患者や ED と類似するような行動的・心理的特徴を呈する食行動異常(Abnormal Eating Behavior:以下 AEB)傾向が強い者の増加が報告されている。また、先行研究では痩せを礼賛する社会文化的影響が身体像不満足感(Body Image Dissatisfaction:以下 BID)を引き起こし、BID を低減させるためにダイエット行動が生じ、こうした行動が過度になることでAEBへ移行し、さらにはEDへ進展する可能性が示唆されている。したがって、学校精神保健においてAEBおよびEDの予防的支援を行うことは重要である。そのためには、早期発見のために適確な測定・査定を行うこと、発症リスクを低減させるために心理教育を実践することなどが必要である。本研究は、女子大学生および女子専門学校生を対象として、①食行動異常の測定・査定尺度を開発し、②食行動異常に関連する心理的要因として自己意識に関する調査を実施し、③その結果にもとづいて、予防のための心理教育プログラムを開発・効果検討することを目的としたものである。

研究1では、一般女子大学生689名を対象として、Body Mass Index(BMI)にもとづく体型分類や既存の尺度による BID、AEB 傾向の実態を調査した。その結果、大半が「やせ」や「普通」に分類されるが、その中でも AEB 傾向が強い者も多数存在し、BID や AEB についてより多面的な尺度開発の必要性や ED 関連研究および予防プログラ

ムを開発する必要性が明確化された。研究2では、女子大学生765名を対象として、BID を多面的かつ詳細に測定し得る身体像不満足感測定尺度の開発を行なった。因子分析の結果、本尺度は「全身のふくよかさ不満足感」因子、「身体に関する他者評価不満足感」因子、「顔に関する不満足感」因子から構成された24項目4件法の尺度であり、内的整合性による信頼性および並行テストによる並存的妥当性が検証された。研究3では、女子大学生301名を対象として、AEB 傾向を測定する食行動異常傾向測定尺度の開発を行った。本尺度は学校精神保健において適用可能性が高い尺度であり、「食物摂取コントロール不能感」因子、「不適応的食物排出行動」因子、「食物摂取コントロール」因子から構成された19項目6件法の尺度であり、内的整合性による信頼性および並行テストによる並存的妥当性が認められた。研究4では、研究3で開発した食行動異常傾向測定尺度を用いて、女子大学生およびED臨床群を対象に比較検討を行い、ROC分析(Receiver Operating Characteristic Analysis)によりカットオフポイントを設定した。その結果、「食物摂取コントロール不能感」因子で16点、「不適応的食物排出行動」因子で2点、「食物摂取コントロール」因子で7点、尺度全体では24点がカットオフポイントとして最適であると判断された。これらの尺度を用いて、研究5では女子大学生、女子専門学校生とED臨床群を対象として、BIDとAEBやEDとの関係性について回帰分析により比較検討した。その結果、学生群では全身のふくよかさ不満足感および身体に関する他者評価不満足感が食物に関する捉われ感や食物摂取コントロールに影響を与えることが示唆され、ED臨床群では全身のふくよかさ不満足感が食行動異常傾向測定尺度で測定される全てのAEBに影響を与えることが示唆された。

また、研究6では、女子大学生、女子専門学校生およびED臨床群を対象として、個人内心理要因としての自己意識に関する検討を行った。自己意識は公的自己意識(外見などに対する意識)と私的自己意識(内的感情などに対する意識)に大別される意識である。分散分析およびパス解析による検討の結果、学生群と比較してED臨床群では、私的自己意識を媒介として公的自己意識が全身のふくよかさ不満足感に影響を与え、こうした全身のふくよかさ不満足感が食物摂取コントロール不能感に影響を与えることが示唆された。また、特に過剰な私的自己意識が、病理的なAEBと関連を有する可能性が推測された。これらの結果に基づいて、研究7では自己意識に関する体系的心理教育プログラムを開発し、女子大学生20名を対象として実施し、効果検討を行った。このプログラムは、自己意識と身体像不満足感と食行動異常との関連についての心理教育と過剰な自己意識の軽減のためのロールプレイから構成されたものである。その結果、心理教育実施後には過剰な自己意識が低減する効果があることや、私的自己意識と合わせて全身のふくよかさ不満足感が低減する者の場合、食物摂取コントロール不能感も低減することが示唆された。

本研究は、摂食障害予防のために女子大学生や女子専門学校生などの青年期女

性を対象とした調査を行い、スクリーニングのための尺度開発および心理的要因である自己意識の観点からの病態発症モデルをもとに、心理教育プログラムを開発し効果測定を行ったものである。従来の研究の多くは、摂食障害の臨床群からみた尺度開発や介入プログラムであるが、本研究は予防に重点をおいた研究であり、学校精神保健における AEB・ED 予防のプログラムとして重要な示唆を与えるものである。特に、この心理教育プログラムは、心理教育およびロールプレイ実習から構成されたもので、簡便かつ導入しやすいプログラムであり、学校精神保健において有用な方法であるといえる。今回の研究では、少人数での短期効果測定ではあったが、実態調査にもとづく新たな心理教育プログラムの提案であり、今後対象を拡大し長期フォローアップ効果の検討をふまえ、学校精神保健の現場での適用可能な有用な試みであると考えられる。近年、増加の一途をたどる摂食障害の予防・早期介入のプログラムとして、その成果が期待される。最後に、山蔦氏の摂食障害研究に対する真摯な姿勢と地道な研究の積み重ねにより本研究成果をまとめるにいたった努力に敬意を表したい。

以上の結果より、本審査委員会は、山蔦圭輔氏の学位申請論文「摂食障害予防のための尺度および心理教育プログラムの開発」は博士(人間科学)に値する研究であるとの結論に至った。

#### 4. 山蔦 圭輔氏 博士学位申請論文審査委員会

主任審査員	早稲田大学	教授	博士(医学)(東京大学)	野村 忍 印
審査員	早稲田大学	教授	博士(人間科学)(早稲田大学)	根建 金男
審査員	早稲田大学	教授	博士(人間科学)(早稲田大学)	鈴木 晶夫